

平成 29 年度 第 2 回京丹後市総合教育会議 会議録

- ・日 時 平成 30 年 3 月 22 日 (木) 午後 2 時 30 分～午後 3 時 40 分
- ・場 所 京丹後市役所大宮庁舎 (4 階) 第 2、第 3 会議室
- ・出席者 京丹後市長 三崎 政直
京丹後市教育委員会 教育長 吉岡 喜代和
同 教育長職務代理者 野木 三司
同 委 員 久下 多賀子
同 委 員 田村 浩章
同 委 員 安達 京子
- ・次 第
 - 1 あいさつ
 - 2 意見交換
 - (1) 教育環境の充実について
 - (2) その他
 - 3 閉会
- ・傍聴人 1 人

(事務局：企画総務部長) ただいまから平成29年度第2回京丹後市総合教育会議を開催いたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、第1条の4第1項の規定に基づき、本市の教育の振興に資するため設置するものです。

本日の司会進行を務めさせていただく政策総括監兼企画総務部長の新井です。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、三崎市長からご挨拶を申し上げます。

1 あいさつ

(市長) 年度末の大変お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

平成29年度第2回となります総合教育会議を開催させていただきます。

今日は小学校の卒業式です。先日は中学校の卒業式ということで、また明日、新山小学校の閉校式、明後日は丹波小学校の閉校式、4月明けますと新たなしんざん小学校の開校式ということで、年度末、年度初めにかけて、大変お世話になります。よろしくお願いいたします。

また、この前の日曜日には、新成人が597名ということで、皆様方にもご足労いただきました。そういった中で、何よりも人口減少対策ということで今進めていますけれども、ここで生まれ育って教育を受けた中で、将来また京丹後市に帰ってきていただきまして、地域の活性化やいろいろと産業を支えていただく、また、新しい教育に取り組んでいただく、そういった人材を、一緒になって育てていきたいというふうに思っています。

本会議につきましては、市長と教育委員会が十分な意思の疎通を図り、地域の教育のあるべき姿、またその課題を共有して、ともに進めていくという位置付けになっていますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

昨年10月には第1回目を開催させていただき、「教育環境の充実」ということで次の新たな学習指導要領の改訂に向けて、どのような教育行政、また我々としては教育環境の充実に向けて予算をどのように付けていくかというようなことで、皆様方と一緒にその方向性をしっかりと確認しながら進めていきたいと思っています。

そのことも含めて平成30年度の当初予算、現在議会の方で審査を願っていただき、だいたい来週の月曜日にそのまとめができると思っていますので、そういったことも含めて、不明な点がございましたらお聞きいただきまして、また今後の施策の予算の執行につきましても、留意させていただきたいと思っています。

限られた時間ですが、よろしくお願い申し上げます。開会に当たりましてのごあいさつとさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

(事務局：企画総務部長) それでは、意見交換に入ります。

本市総合教育会議設置要綱第4条の規定により、市長に会議の進行をお願いいたします。

三崎市長、よろしく願いいたします。

2 意見交換

(1) 教育環境の充実について

(市長) それでは、私の方で進めさせていただきます。

次第2、意見交換(1)教育環境の充実についてです。

まず事務局からご説明申し上げます。

事務局(企画総務部長)より資料1 説明

(市長) 一定、雑駁ですが、これまでの流れ、そして、いろいろとワーキンググループ等で、平成30年度の予算に向けた事業予算というものを組み立ててきたということです。

何よりも、教育委員会の予算につきましても、当然私どもの予算につきましても、人口減少対策につながるような予算ということで、地域、企業、いろいろなところに繋がっていくようにということで、進めて参りたいと思います。

簡単な説明で申し訳ありませんが、皆さんの方で、是非ここで聞いておきたいということがありましたら、遠慮なくおしゃっていただけたらと思います。

(野木委員) 先ほど教育委員会の会議で、改めて教育長にも質問したのですが、来年度の機構改革ということで、教育委員会にスポーツ推進室が設けられ、それについての中身を何度も説明していただいて、今ある程度理解はできているのですが、教育委員会がスポーツを通じて観光でまちづくりをしていく部門を担ってくださいという部分もあると聞いています。そのところが、まちづくり、観光という、非常に対外的な事業をこなしていくというふうに捉えるのですが、観光という部分と、今までの教育委員会という私自身の捉え方と一致をしない部分があったので、教育長から何度も説明を受けたのですが、もう少しだけわからないことがあったので、市長の方からそのあたりを説明いただけたらと思います。

(市長) そもそも、スポーツというのは教育委員会の所管ということで、市長部局の方にはスポーツというのはもともとなかったのです。体育と言うのですかね。市長部局では、健康推進の方で運動とかいうことは担っていますが、法改正で市長

部局でもスポーツを持てるようになったので、今スポーツ観光ということができて、そもそも教育委員会部門だけでやっていたのが、結構広がりが出てきて、当然私どものところは、スポーツイベントと観光というのはセットになってきたということで、一旦分かれたのですが、それはそれでやってみると、いわゆる競技であったり、競技人口の拡大であったり、健康推進であったりということがあるので、とりあえずいっぺん市長部局の方で持とうかなと思ったのですが、実際にやってみるとまだまだ整理の期間が必要だということで、今回はそういった協議の中で、時間的に整理が難しいだろうということで、とにかく教育委員会にスポーツ推進室というものを作って、スポーツというものを一元化してみようということです。当然これは観光振興課の方とも一緒になって、例えば東京オリパラのホストタウンですが、これについては当然一緒になってやっていかなければならないと思います。京都府の方も、午前中府庁に行くことがあって、スポーツ推進室の方に行っていたのですが、とにかく、全町的にやる必要があるところなので、ただ、観光だけにスポーツ観光でやってしまうと、どうしてもちょっとずれが出てしまうことがあって、どうもその、イベント、イベント、イベントというふうになってしまう。メインはスポーツ推進室でしっかりとやって、プラス観光ということを横から繋いでいくという形にした方が、せっかくのスポーツも、今からドイツ、韓国というところが可能性としてあるのですが、ようするにスポーツを通じて地域の活性化だとか、国際交流だとか、いろいろなことに広げていかなければならないので、そのところは当然、今なら観光振興というところや、企画もかんでくると思いますし、そういうものをいっぺんまとめないと、2021年のワールドマスターズも、これは国際大会なので、スポーツ観光でやってしまうとちょっと意味がずれてしまいます。府体協の武田先生もドラゴンカヌーと一緒に来られていて、府体協が結構かんでやっているのでも、そこはやっぱり教育委員会にきちっと窓口を一元化した方が良いかなと思って、ずっとそういう形でいけるかはやってみないと分からないのですが、教育委員会に置いた方が、今の京丹後市の状況では、一番ベターかなというふうに思っています。当然それまで教育長ともいろいろと協議をしてきました。そういう中で、大変大きな部署になるのでご苦労だなと思っているのですが、現状としてはこれが良いかなと思っています。3日ほど前にも、たまたま京都市内に前オリンピック代表の遠藤先生が来られて、ホストタウンのことで話したいということで行かせてもらって、国会議員の皆さんもおられたのですが、教育委員会の方がたぶん良いと思うのです。オリンピックだとかワールドマスターズとなると、当然一体でやるのですが、一定スポーツの整理をして、改めて時間をかけてじっくりと、当然このスポーツ推進計画も教育委員会の方で策定してもらっていますし、そこはそこで軸としてとりあえずやった方が良いかな。京都府の方としても山田知事が積極的で、ドイツも韓国も知事のところに表敬訪問に行っておられますので、日本カヌー連盟の

会長さんも非常に久美浜会場に力を入れていただいて、急に韓国、ドイツが来られたぐらいなので、スポーツ観光ではちょっとずれるので、是非教育委員会でしっかりやっていく中で、生涯学習、生涯スポーツということ、さらに公民館活動等も含めて、やっていくのが良いのではないかということ。これはやってみないと分からないですけど、教育委員会からスポーツ観光に行って、もういっぺん戻す中で、再整備をさせてもらったということです。

ちょっと分かったような分からないような話ですけど、スポーツはものすごい広がりがあるので、1つのところに閉じ込めるのは難しいのですが、それはそれとして、一緒になってそれぞれの役割はしっかりやっていこうと思いますので、教育委員の皆さんにも今から深く大きく関わってもらわないといけないということになります。スタンドアップパドルボードという、ボードの上に立ってする競技の全国大会で、急にこの夏、6月ぐらいにあります、京都府の方にもカヌー連盟が入って来られていますので、それを上手いこと取り込みたいなと思っはいるのですが。

(野木委員) ありがとうございます。

(市長) スポーツというのはなかなか捉えにくくて、すごく難しい。

(野木委員) 私は、この形になったのがなかなか理解できないということがありました。今もほんの少しだけあるのですが。

理解できない部分はあるのだけれども、教育委員会がこういう地域活性の部門、観光とかそういった部門を受け持つということにおいては、そんなに反対はしていないのです。と言うのが、教育委員会の方々も是非、地域活性でいろいろな事業展開をしているという部分に実際に関わって欲しいなということは思っているのです。そういったところで、生涯学習の部分や、先ほど市長も言われた公民館活動、そういったところの方々も、地域活性における観光とか、そういう部分も柔軟に考えていただけるきっかけになるかなというふうに、実は思ったのです。

私に関わっていることなので、差し障りがあるかも分からないのですが、全国から集まって来られる事業がある中で、頑なに、公民館はこういう部分では使ってはだめだとかいう制約があります。具体的に言うと物の販売をしたいという団体がある中で、それはだめだと言うのです。でも、そこで丹後の物産のPRをするということが、すごく丹後においては大きな効果が生まれてくる。これは何年間か実績があることなので、そういうことが生まれるのですが、そういう丹後の活性化に繋がるということも柔軟に考えていただいて、公民館の使用を認めていただけるような考えも持ち合わせられる職員の方々が増えれば、それに関わっている住民の方々のモチベーションもすごく上がると思うのです。今は、ルールに

おいてバサッとだめなものだめというふうになってはいますが、観光とかそういう事業はそれだけではいけない。バサッとやってしまうと、それに関わる市民の方々の気持ちというのは萎えてしまう。そういうことは今まで何回もありました。そういう部分が、今の「スポーツで観光」ということをこの教育委員会に関わるにおいて、住民の声とか思いとか、そういうものが考えていただけるようになれば良いなというふうに思っています。補助金を出すことの方法というの、先ほどの会議でもお願いをしたのですが、改めて今まで教育委員会の中で検討をされなかったような部分が、この中で検討されるような機会になれば素晴らしいことだなというふうに感じました。

(教育長) 先ほども教育委員会で同じような話をしていたのですが、スポーツは基本的には教育委員会がするというので、京都府もそうですが、大きな都市になってくると教育委員会だけでは抱えきれないということで、知事や首長部局の方でされていることが多いです。ただ、そうなったとしても、やっぱり教育委員会とその分野とは関連をしてやっていかなければいけないということになるので、大きな目で、スポーツを使ったまちづくりをする時に、どこがするかということなのですが、京丹後市の場合も各種団体をいろいろと抱えていて、スポーツ関係ではやっぱり教育委員会がほとんどなので、教育委員会でさせてもらうということです。

ただ、今回スポーツ関係は全部教育委員会に来ているのですが、中には本当に観光イベント的なものもあるので、これについては一定また整理する時期が必要かなと思っています。中心的には今回は教育委員会が関わらせていただくということです。

(市長) 久下委員さん、予算も含めて何かありませんか。

(久下委員) ふるさと魅力発信映像を作成されたということで、前の会議の時に、京丹後市にもいろいろな進んだ技術的なものもあるというような話もあって、是非これは広めたら良いですよという話をしていたのですが、早速に作っていただいて、中学校の丹後学の授業に活用ということですが、せっかく作られたのですから、いろいろな機会に発信して行って、それこそ親御さんが「丹後にいたって何もないよ」というような発言になっている現状の中では、もっともっと広めてもらえると良いと思っていれば、さっそく動かれたのだなと感じながら聞いていました。

(事務局：企画総務部長) この映像につきましては、一応計画していますのは、できたらCATVや、会社の説明会も市の主催でやるのですが、そういったあたりに

も流していきながら、子どもさんもしくは親御さんにPRしていきたいと思っています。ありがとうございます。

(久下委員) 30年度に作る予算を付けたいということですね。

(市長) 今議会の方にかかっています。

(久下委員) わかりました。

(市長) ありがとうございます。田村委員どうぞ。

(田村委員) まず教育環境のことですが、電子黒板の整備とタブレットの導入ということで、今後の教育について期待がされるわけですが、一方で働き方改革で、先生方の負担増というところと、バランスが取れなくならないように、導入したからにはしっかりとした授業ができるように、教える側の研修の方もしっかりとお願いして、本当に丹後の教育環境で育って良かったと、子どもたちがそう思っていけるようにしていただきたいと思います。海外派遣事業も、是非、回数とか、場所とか、人数とか、増やせる範囲で増やしていただきたい。このぐらいの年代で経験したことは本当に宝になると思いますので、いち親として、この事業は継続して行っていただきたいと思います。

地方創生の1-2の資料ですが、情報不足ということをおっしゃいましたが、まさにその通りだというふうに思います。情報がないまま都会に行った若者は、「帰ったってだめだろうな」というところで妥協して都会で生活している。また親の方も丹後の状態がはっきり分からず、都会の生活も分からず、「都会の方が良いだろうな」と。けれど、住環境にしても何にしても都会の方が本当に厳しいと思いますし、夫婦2人で子育てをしていくのも都会の方が厳しいと思いますので、やっぱりそのあたりの情報発信というのを、いち企業や、1人や2人でやるには限界がありますので、市の方や公なところで、丹後はこうだという情報発信を、外にも内にもしっかりとさせていただいて、95%が出ていくのは仕方がないことだと思いますので、戻って来るパーセントを何とか増やしていけるようお願いし、期待もしています。

(市長) 学校の空調化工事も最終年度で山を越したということですが、今度は電子黒板ということで、今回議会の方には、3年生以上の普通教室には全部入れさせてもらうということですね。去年の第1回目の総合教育会議でも、皆さん方、私も現場を見せていただいて、「これは良いな」と思いました。今までと全く違った授業になっているということで、これはいち早く何とかさせていただきたいとい

うことでされたのです。

働き方改革の取組みについては、中学校もクラブ活動が今、週2日がなしですか。いつからですか。

(教育長) 去年の11月からです。

(市長) 今までからそういったことが叫ばれていたのですが、教育委員会のみならず、私ども職員の方も台風等もあったりして、時間外が大変心配されています。住民の皆さんもそういったことを理解していただきながら、現場だけではなかなか解決できないところがありますね。行政に対するニーズだとか、学校に対するニーズが、どうしてもたくさん出て来るということで、先生方も思い入れで強くしてやりたいということもあると思うのですが、これはなかなか、我々も社会も理解をしていかないと解消はしていかないだろうなということがありますし、一緒になってそれは進めていきたいと思っています。

6町が一緒になって まだ十分に6町間の情報が共有されていないということで、区長会だとかいろいろなところでお話する中で、お父さんお母さんが自信を持って子どもに言葉をかけていない、やっぱり情報不足だなと思っています。片一方では、仕事の注文を受けるが人手が足りないので逆にキャンセルしなければならないということもあちこちで聞いていて、ますますこれからはそういうところは厳しくなる。市の職員の応募もどんどん減っています。辞退もたくさん出ています。都会の民間の企業が取り合いをしていますから、我々の期間も今年度は従来よりも早く、3回募集をしています。京都府の地方全体が厳しい状態なので、とにかく自信が持てるような情報共有を図っていきたいと思っています。ひいては地域に担い手ができる、企業も担い手ができるということです。

まずは子どもさんの時から、教育現場でそういう情報を発信し、子どもさんが自宅に帰ってお父さんお母さんに言えば、親御さんも分かってくると思うので、そういうことを一緒になって考えていきたいと思っています。教育委員会の皆さんにはいろいろとお世話になります。

安達委員さんいかがですか。

(安達委員) スポーツと地域活性化ということでしたが、今、途中ヶ丘グラウンドの駐車場を整備していただいている、大変ありがたいなと思っています。いつも駐車場に悩んでいたのも、大きな大会等もあり、たくさん人が集まる場所ですので、すごく良いことだなと思うと同時に、あそこがさらに国際的にも大勢が集まれる場所で、いろいろな大会がもっともっとできて、全国大会があつて、遠くからたくさんの方が来られるような場所になれば良いなと思います。せっかく広い場所があつて良い環境ですので、お金はたくさんかかるとは思いますが、3種に向けて

そういうふうになれば、常時そこに若者が集い、前日から泊まって合宿等にも使えて、活性化にもなるのではないかなという思いがありますので、是非そういうことも考えて進めていってもらえたら嬉しいなと思っています。

それと、京丹後がとても住みやすく、子育てしやすくという発信をこれからしていってもらおうということですので、期待はしていますが、今とても乳児が多い保育所と言うか、無料化してもらえたのでどんどんお母さんは働きに行き、そのお金がそのまま自分の収入になる。今まではちょっと働きに行っても全部が子どもの保育料になってしまって、それなら働かないということもありましたが、今はすごくたくさんの方が職場に出て、子どもたちはどんどん保育所にやってきました。

そういう環境の中で、公立は乳児保育はあまり進めてきていないのが現実でしたが、最近乳児が多くなって、手探り状態と言うか、どうしたら良い保育ができるだろうかという中で皆さん頑張っていると思うのです。できたらそういうところにも研修会の機会を多くするとか、正職で働ける場所を多くするとか、手を借りなければなりませんので、シニアの方も手伝ってくださるということで保育所に勤める人も多くなって活性化できたら良いなと思っています。

(市長) 途中ヶ丘の調査はどうですか。

(教育次長) 今年の雪で予定より若干遅れているのですが、3月で調査の方は一定整理ができると聞いていますし、あと京都府の方に確認を取る作業が残るのですが、4月ぐらいには整理も終わるのかなと思います。

(市長) その経過は教育委員さんに説明してもらいましたか。

(教育次長) 教育委員さんには調査のことも伝えてあります。

(市長) ちょっと遺跡のことでブレーキがかかったものですから。

この途中ヶ丘の3種、いわゆる公式、公認記録か、4、5年前になりますが8千人を超える署名や、要望書が出されましたし、北丹陸協さんの方もそういった京都陸競の方の役員もしていただいていますので、積極的に大会の誘致をですね、高体連、中体連とかもお話をしているようなことで、我々としては、今いろいろな財源を確保するためにあちこち情報収集をする中で、これについては今の調査結果を待って、本当はもうできなければならないのですが、駐車場が地権者の事情で遅れていまして、それと併せて、できれば3種化に向けて予算を確保していきたいと思っています。現在そういった財源確保に関係省庁も京都府の方もいろいろ働きかけをやっていきますし、3種になると丹波自然運動公園から

北では唯一となりますので、非常に大きな価値があり、大会としても格が上がります。そして、今山陰近畿自動車道が大宮、峰山道路を懸命に、史跡調査が30、31年度で終わると思うので、それが終わればすぐに用地買収に入りたいということで国交省の方からお聞きしています。そうなればそう遠くない時期に新町までのアクセス道路の地元の説明会も終わって、今から立ち退きなんかもお世話にならなければならないので、それを今建設道路に使って、そのあとアクセス道路に使いたいということです。当然そうすると京都市内からでも1時間半とか、2時間以内で来ていただけるので、せっかくのそういった道路が活用されるように、地域活性化、また、子どもたちの記録の励みと言いますか、いろいろなアスリートの皆さんにも来ていただきたいと思っていますので、今教育委員会と教育長が非常に大きなものを背中に背負っておられて、一緒になって頑張っています。

子育て支援の充実というのは、議会のたびに議員の皆さんも大きな関心を持っておられます。それも非常にありがたいことですが、いろいろなところで「あそこは良かった」「ここは良かった」と言われることはあるのですが、現実、この広い500k㎡と言うか、6町ということもありますので、距離的なこととかあまり負担にならないように、できれば近くにそういうところがあるに越したことはないですが、全体を見渡す中で、今から改めてどのように充実をしていくか、それと併せてそこでお世話になる職員の皆さんにも働きやすい、子育てにしっかり取り組んでいただけるような、これも私たちと教育委員会との共同作業みたいなものですので、そこでしっかりとさせていただいて、優秀な人材を育て、一旦都会に出ても、将来地元に戻って来て次の社会を担っていただくという共通目標の中で進めたいと思っていますので、これからもこういう機会を持ち、共通認識をさらに深めていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

その他、事務局の方から何かありますか。

(事務局：企画総務部長) 組織の話は今していただいたので、資料としては2-1と2-2が付いていますので、また何かありましたら言っていただけたらと思います。教育委員会の方から何かありませんか。

(事務局：教育総務課長) 特にないです。

(市長) 特にないということですが、全体を通して何かありますか。

(野木委員) 教育委員会の委員の中でもよく議題にして、会議が終わってからいろいろ話をしていることなのですが、図書館のことです。

教育委員会としても、方向を打ち出そうという、それは来年度か方針が出てい

ると思いますけども、個々の考えは、やはりいろいろ持っているものがありますので、私の個人的な考えということで聞いていただけたらと思います。

図書館ということが、私の認識の中では4～5年前からクローズアップされて、当初は、丹後に立派な1つの施設ができれば良いなと思っていました。しかし、福知山にでき、宮津にでき、また、武雄市（佐賀県）の方にも立派なものがあるという、いろいろな図書館が成功事例としてある中で、1つの大きなものが必要なのかどうかというのは非常に疑問に思っています。先ほど市長も別の問題で丹後の広さをおっしゃいましたが、丹後は6つの町からそれぞれの文化、微妙な違いの文化がある、その中で、それぞれの町に特化したような図書館的なものもあっても良いのではないかと。決して大きなものは必要なくて、今は専門書とか、京都府の方の図書館でも、福知山でも借りていく仕組みができると聞いています。欲しければ1日待てばアマゾンでも何でもすぐ手に入るという時代の中で、大きなものでたくさん書物を集めた施設が果たして必要なのかどうかというようなことを、最近是非常に考えています。

峰山、大宮、弥栄で1つできると、それはそれで良いと思うのですが、久美浜、網野、丹後町というのは、既存の、例えば丹後町の庁舎、そういったものを充実させて、近くの人が集まれるような、そういった施設の方が利用しやすく、子育てにも絡めてできるのではないかと考えています。

宮津にはうちの孫も良く行くのですが、日置の方からいつも行くのですが、宮津のロケーションだから良いのであって、また福知山の地域だから良いのであって、果たして丹後にそういったものが相応しいのかどうかは疑問に思っています。これは私だけの意見で、他の3人さん方はおそらく違うと思いますけども、その意見を、報道がなされるたびに考えていますし、最近、本当によく議員さんからどう思っているのかを聞かれることがあるので、最近は今のようなお話をしています。

(市長) ありがとうございます。図書館は本当にそれぞれの思いと言いますか、議会でも結構複合施設みたいなイメージを持っておられる議員さんもいて、議員の皆さんも実はいろいろなイメージを持っておられて、じゃあどういうふうなそういったものを整理していくかというのは、これから教育長は大変な作業だと思うのですが、もし他の委員さんでご意見がありましたら。これはもう意見交換ですので、具体的に今どう進むということにはなっていないので、一応答申をいただいたということですし、これからは教育委員の皆さんの中で議論を深めていただく必要があると思っています。

京都府北部連携都市圏ということで、5市2町の首長でこの前お話をさせていただいたのですが、図書館のみならず、あるものはお互いに相互利用していかないと、それぞれの財政状況が厳しい中で、隣にあるから同じものをというのとはな

かなか厳しい。そのためには、高速道路網の整備だとか、公共交通の京都丹後鉄道の充実だとか、そういったものを活かして、せっかくのインフラもそれを活用できるような形にしていくべきだということで、これは舞鶴市の多々見市長も強く言っておられます。多々見市長は、とにかく京都府北部に住んでくれたら良い。自分のところだけではなく、京都府北部で働いて住んでくれたら良いので、自分のところだけがということは、そんなことは子どもたちには言わないと。とにかくこっちに帰って来て京都府北部で活躍してほしいとおっしゃっています。ただ、そうなる面積が広いので、現実にはなかなか、思いとしてはマクロの部分とミクロの部分と言いますか、そのバランスを考えていかないと、「隣にあるからうちも」となってしまうと、そもそも何の目的に作るのかということになるので、私の考えとしては、冒頭から言いますように、人口減少については、それぞれの地域で住み続けられるような環境をどう整えていくか、また、どこでもしっかりとした教育環境を整えるということだと思しますので、答申は答申として、あくまでひとつの意見をちょうだいしたということですので、それをどういうふうに具体化するかというのは、今から考えていく中で議論してもらって、やろうということになればその方向にいくと思うのですが、非常に大きなテーマになってくることは間違いないということです。いろいろな意見が出てくるべきだと思います。

(田村委員)　うちの娘は高校生で、綺麗な図書館が1つ欲しいと言っていますし、既存の図書館に通っていらっしゃる方たちというのは、どんな施設であっても同じように本を借りられると思うのですが、今まで図書館に行ったことのない人や親御さんとかそういうところにも広く本を広めるという点においては大きな施設、予算のことは一切考えずに言っていますけど、そういうものがあってくれたら、本当に保育園児からお年寄りまで利用できる図書館になりますし、そういったところでの交流も含めて、気楽に足が運べる施設があったら良いなと思います。今の峰山図書館は、坂の上で、なおかつまたその3階で、なかなか行きにくいので、そういうものがあってほしいなというふうに思います。

(教育長)　図書館協議会でも話し合った中では、峰山図書館をどうするかということが大きな話ですね。極端な話をしますと、市に1つでも良いではないかという話が出た分もあるのです。今の、車で行くことを考えたら、遠くの方であっても別に皆寄って来るだろうという話もあったのですが、やっぱりある程度地域的なことを考えると1つではやっぱり少ないということで、丹後、弥栄、久美浜は残したらどうだという話で整理が進みました。

今の図書館の考え方が、全国的に話が出ているのは、単に本を貸すだけではなく、まちづくりやそういうことに使える図書館でないともったいないということ

です。子どもたちや子育ての世代だけでなく、一般の人たちがそこへ行ったらいろいろな情報が得られる、それをまちづくりに活用できるような図書館がだいぶ前から出来ているので、たぶん議員さんたちもそういう図書館を見て来られているのではないかなと思います。ですから、区長さん方でも、まちづくりのことで相談に行ったら、図書館の職員はいろいろな情報を持っていて、いろいろなことを教えてくれるのだというような図書館を頭に描いているのではないかなと思います。

どういう図書館を作っていくかということについては、お金のこともあるので、今後大きな課題だろうと思っています。一応教育委員会が担当なので、また30年度になってから少し市長と相談をさせていただいて、どういうものを作るか以前に、進め方もどういうふうに進めるかということについても改めて相談させてもらおうかなと思っています。

(市長) 安達委員さん、ご意見ありますか。

(安達委員) 私は久美浜なので、やっぱりこっち側は遠くて、兵庫県の方が近いので、兵庫県に行ったら豊岡に立派な図書館があって、そこでも借りたり勉強したりしています。距離的な問題で、立派なものができてもなかなか活用ができないから、やっぱり久美浜は、小さな子どもを連れて本を借りに行くためには久美浜に残してほしい。丹後町もそうでしょうけど、京丹後はとても広いので、その点では1つだけという総合的ないろいろな活動ができる図書館を夢見ますが、それはやっぱり教育において核となる、基本となる、大事なもののなのですが、遠いのですね。利用しにくいという面では、やっぱり小さい子を連れて行くには30分以内とか、近いところでないと利用頻度が少なくなったり、なかなか利用できない面では、どうが良いかなというふうには思いますし、久美浜は久美浜で残してほしい。でも、立派なものがあっても良いというところで、へき地に住んでいる者はそういうような感じは受けます。

(市長) ありがとうございます。久下委員さんどうですか。

(久下委員) 同じような感覚です。私も丹後町で遠いので、こっちまで出て来ないといけないというのは、皆さんの都合から見ると良くないかなという気はするのですが、やっぱり立派ないろいろな施設、先ほどありました作成された映像のようなものでも見ようと思えば見られるような、そういうことも含めて、京丹後市全体の文化的なものも統合したような図書館があると良いなという思いはあるのですが、予算的なことを考えるとなかなかそんなことは困難かなという思いも一方であり、複雑な思いです。なんとかお金を工面していただきたいと思います。

(市長) はい。頑張ります。

(安達委員) でも焦らずに、ゆっくり考えていっても良いような問題だと思うのです。やはりこれからは丹後全体として考えていかなければならない。宮津に行ったら立派な図書館があり、京丹後に行ったら立派なグラウンドがあり、丹後町に行ったら立派な海の施設があるとか、久美浜はカヌーの会場があるとか、それぞれの土地で特長のあるものがあれば、よそにあるから京丹後もしなくてはならないという考えは無理がある。だんだん高齢化が進んで、お金もだんだんなくなる中で、その活用方法もどうなるか分からない、もっともっと若者が増えて利用価値があるのだったら進んだら良いと思うし、このままの状態が続くのだったらもう少し考えて、やり方を変えて、地域に根差した図書館にした方が良いかなというふうになるかも知れないので、もう少し時間をかけてゆっくりと、より良い方向に進んでいく方が良いかなというふうには思います。

(市長) ありがとうございます。

(久下委員) 例えば丹後町とか、久美浜町でも弥栄町でも本当に手狭過ぎて、大きい改革はこれからしていただくにしても、それまでに、現状は改善してもらえるとありがたいなという思いはあります。

(教育長) 企画とも相談させていただいて、特に久美浜は早急になんとかしようかなということは考えています。

(事務局：企画総務部長) 考えていたのですが協議中だったので何も予算も組んでいないのですが、答申が出ましたので、できたら早いうちに久美浜の方は動きをしたいと思っています。

(市長) まだ、これから引き続き図書館については、いろいろな観点からご意見を賜る中で、安達委員もおっしゃいましたように、あまり性急にならずに、将来図書館というものが、皆さんに親しんでご利用いただいて、また評価されるような施設にしていけないともったいないなと思いますので、今後ともいろいろなご意見を賜りたいと思っています。
進行を事務局にお返しします。

(事務局：企画総務部長) それでは皆さん、活発なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。走った会議の運営になりましたことをお詫び申し上げ

ます。

それでは、平成29年度第2回の京丹後市総合教育会議を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。